

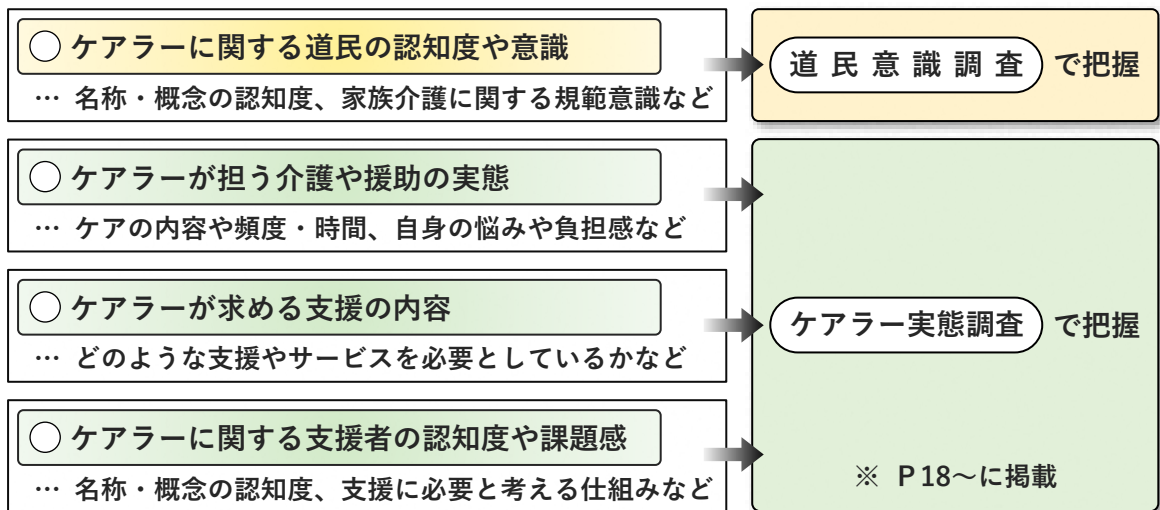
3

家族介護に関する道民意識と実態調査

1 道民意識調査

ケアラーという名称やその概念については、一部の関係機関や支援者間では知られているものの、社会的な認知度が高いとはいえない状況にあります。

ケアラー支援を進めていくに当たっては、ケアラーの存在に関する道民の認知度や家族介護についての意識を把握し、その内容を施策に反映させることが重要なため、令和4年度に「道民意識調査」を実施しました。



(1) 調査方法及び実施時期等

- ▶ 調査地点 … 北海道全域（150地点）
- ▶ 調査対象 … 道内に居住する満18歳以上の個人
- ▶ 標本数 … 1,500サンプル
- ▶ 抽出方法 … 無作為抽出
- ▶ 調査方法 … 郵送又はWebによる回答
- ▶ 実施時期 … 令和4年(2022年)9月



(2) 調査項目

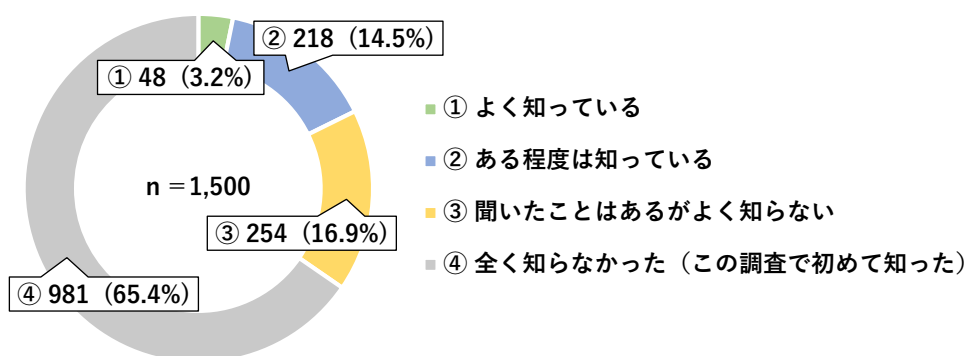
- Q1 ケアラー・ヤングケアラーという名称の認知度（知っているかどうか）
- Q2 認知経路（どのように知ったか）
- Q3 家庭内における家族介護についての意識（当然と思うかどうか）
- Q4 家族介護に関する当事者意識（身近なことと思うか）

※ 調査結果は10月に取りまとめられるため、以下は全て仮の数値としている。

(3) 調査結果

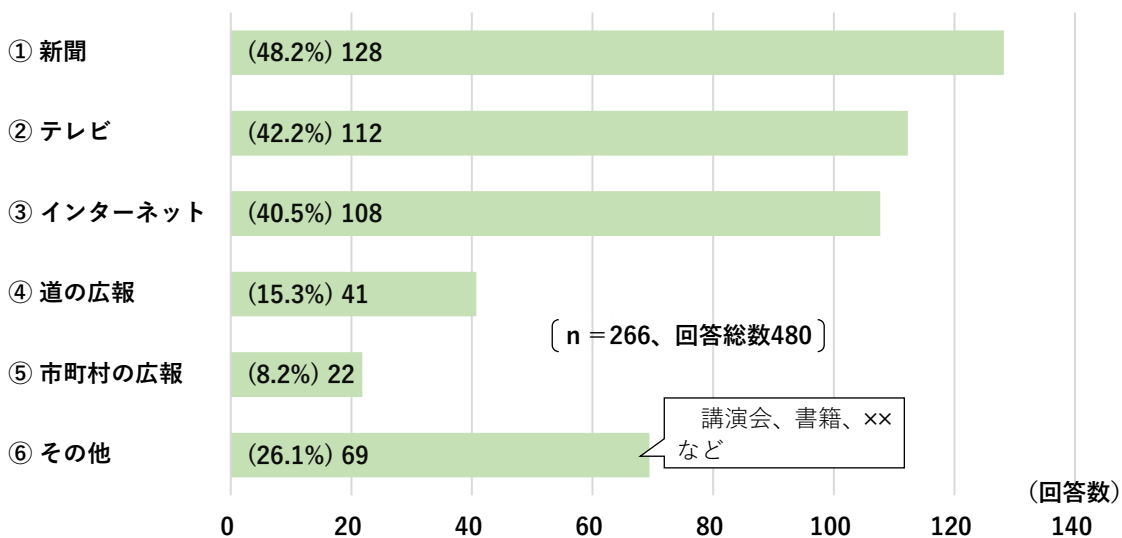
Q1 ケアラー・ヤングケアラーという名称の認知度

* 「④ 全く知らなかった」が65.4%で最も多く、「③ 聞いたことはあるがよく知らない」の16.9%と合わせると、約8割が十分に認知していないという結果でした。



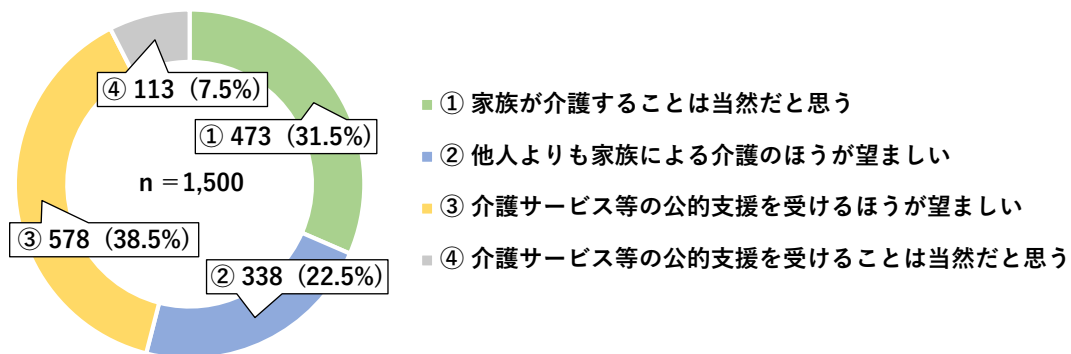
Q2 認知経路 (Q1で①又は②を選択した場合。複数回答可)

* どのようにして知ったかという認知経路については、「① 新聞」が最も多く、「② テレビ」と「③ インターネット」がそれに次ぐ回答数となっており、これら3つで全体の約7割を占めているほか、「④ 道の広報」と「⑤ 市町村の広報」も合わせて1割超となっています。



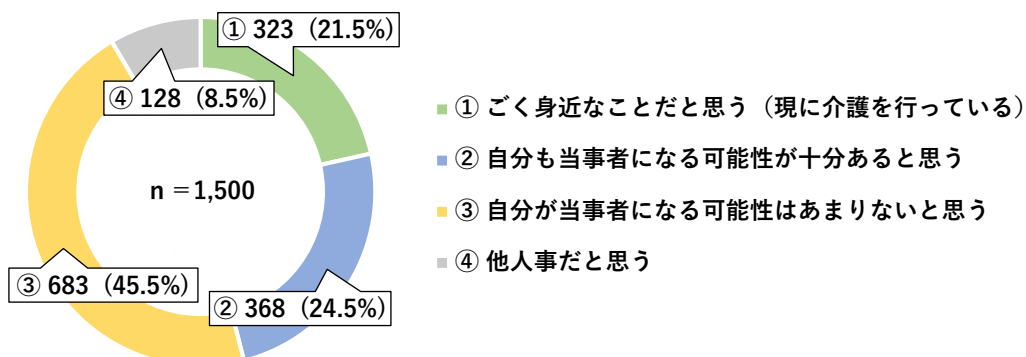
Q3 家庭内における家族介護についての意識

* 「③ 介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい」が38.5%で最も多く、「① 家族が介護することは当然だと思う」が31.5%でそれに次ぐ割合となっており、①と②の合計（家族介護のほうが望ましいとする意識）が③と④の合計（公的支援のほうが望ましいとする意識）を上回る結果でした。



Q4 家族介護に関する当事者意識

* 「③ 自分が当事者になる可能性はあまりないと思う」が45.5%で最も多く、「② 自分も当事者になる可能性が十分あると思う」が24.5%でそれに次ぐ割合となっており、③と④の合計（関わりが薄いと思う意識）が①と②の合計（身近に思う意識）を上回る結果でした。



2 ケアラー実態調査

支援を必要としているケアラーを早期に発見・把握し、適切な支援につなげるための方策を検討するに当たっては、当事者が抱える悩みや負担感、身近な支援者の課題感などを把握することが重要です。

令和2年度にはヤングケアラーに関する全国調査が実施されたところであり、この内容を参考としつつ、道内の状況を的確に把握するため、道では、令和3年度から4年度にかけて「ケアラー実態調査」を実施しました。

(1) 調査方法及び実施時期等

A ケアラー関係

調査対象区分					
抽出方法	調査方法	実施時期	標本数	回答数	回答率
① 高齢者を介護や援助しているケアラー					
市町村が選定	郵送	令和3年7月27日～8月26日	1,390	987	71.0%
② 障がい者を介護や援助しているケアラー					
事業所が選定	郵送	令和3年7月27日～8月26日	1,515	447	29.5%
③ 福祉の各分野における主な相談機関（※）					
全数調査	Web	令和3年7月27日～8月26日	832	416	50.0%

※ 地域包括支援センター、特定相談支援事業所及び生活困窮者自立相談支援機関

B ヤングケアラー関係

調査対象区分					
抽出方法	調査方法	実施時期	標本数	回答数	回答率
① 小学生（5年生及び6年生）					
全数調査	Web	令和4年7月12日～7月27日	48,576	14,063	29.0%
② 中学生及び高校生（2年生）					
全数調査	Web	令和3年7月27日～8月26日	約50,000	11,231	約22%
③ 大学生（4年制大学の全学年）					
全数調査	Web	令和4年7月12日～7月27日	69,854	1,041	1.5%
④ 小学校（市町村立）					
全数調査	Web	令和4年7月12日～7月27日	779	759	98.2%
⑤ 中学校及び高等学校（公立）					
全数調査	Web	令和3年7月27日～8月26日	691	561	81.2%
⑥ スクールソーシャルワーカー					
全数調査	Web	令和3年7月27日～8月26日	73	46	63.0%

※ ①～⑤については、いずれも札幌市を除く。

(2) 調査結果（個別の回答内容）


調査対象区分ごとの回答内容については、道のホームページにて公表しているほか、その概要や傾向を表すために要約等したものを参考資料として一体的に掲載しています（P70～171）。

3 調査結果からみえた課題

各種調査の回答内容を取りまとめの上で分析・評価し、有識者会議において協議・検討を行った結果、次のとおり3つの主な課題が明らかとなりました。



有識者会議での協議・検討を経て、調査結果から以下のとおり主な課題を可視化

- 
- i 認知度や意識に関すること**
 - ケアラー・ヤングケアラーの存在や支援に関する認知度が十分ではない
 - 誰もがケアラーになり得るという当事者意識が広く浸透していない
 - ii 相談や支援の体制に関すること**
 - 多くのケアラーが、相談窓口や負担を軽減する支援を求めている
 - 多くのヤングケアラーは、ケアに関する悩みを相談した経験がない
 - iii 地域全体の支え合いに関すること**
 - ケアの代替者が「誰もいない」とするケアラーが一定数認められる
 - 公的支援やサービスが十分活用されていない（知られていない）場合がある

ケアラーへの支援を適切かつ効果的に行うに当たっては、これら実態調査の結果を踏まえた上で、施策の内容や進め方を検討し、総合的・計画的に各種取組を実施していくことが重要です。